

企画スタッフ (徳島文理大学文学部文化財学科)

監修：教授 濱田 宣 / 教授 橋詰 茂  
協力：教授 古田 昇

香川キャンパスから小豆島を望む



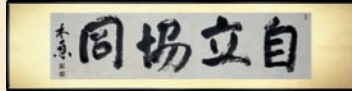
過去8回、先輩たちが制作した  
展覧会用スタッフジャンパーを着用

学 生	役 割
2年生 植松 可奈子	第3章展示 代表(総轄)、記録、リーフレット
2年生 濱岡 砂弥	第3章展示 副代表、展示監督、パネル、ポスター・チラシ
1年生 江草 拓哉	第2章展示 アンケート、キャプション、リーフレット
1年生 大原 知敏	第4章展示 ポスター・チラシ、キャプション
1年生 岡本 昂久	第4章展示 演示具、開会式、ポスター・チラシ
1年生 谷本 秀雅	第1章展示 パネル、演示具
1年生 松井 一真	第1章展示 リーフレット、展示解説会、キャプション
1年生 吉積 惇	第2章展示 キャプション、展示解説会



徳島文理大学

建学精神



成長していく人間としての「自立」は、「協同」すなわち、他からの協力、他への協力という体験の中で促されるものであるという建学精神「自立協同」のもと、学術・芸術の探究を通して未来を創造する大学を目指しています。

香川キャンパス



徳島キャンパス



124年の伝統と新風  
9学部27学科の総合大学

香川キャンパス

文学部

文化財学科(専門文化財コース、教養文化財コース)  
日本文学科(国語科教員コース、日本語・日本文学コース)  
英語英米文化学科(英語教育コース、英語コミュニケーションコース)

■香川薬学部

薬学科  
■保健福祉学部  
臨床工学科・診療放射線学科

■理工学部

ナノ物質工学科・機械創造工学科・電子情報工学科

大学院・専攻科

■大学院

薬学研究科・人間生活学研究科・看護学研究科  
工学研究科・文学研究科・総合政策学研究科

■専攻科

人間生活学専攻科・助産学専攻科・音楽専攻科

研究所

健康科学研究所・生薬研究所・比較文化研究所  
未来科学研究所・神経科学研究所

徳島キャンパス

■薬学部

薬学科  
■人間生活学部  
食物栄養学科・児童学科  
心理学科・メディアデザイン学科・建築デザイン学科  
人間生活学科

■保健福祉学部

理学療法学科・看護学科・人間福祉学科・口腔保健学科

■総合政策学部

総合政策学科

■音楽学部

音楽学科

■短期大学部

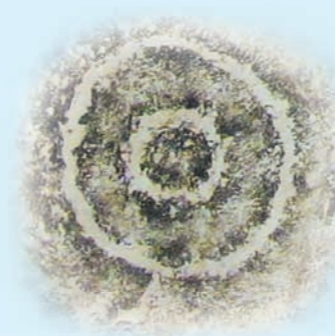
商科・言語コミュニケーション学科  
生活科学科・保育科・音楽科

<http://www.bunri-u.ac.jp/>

香川キャンパス 〒769-2193 香川県さぬき市志度1314-1  
tel.087-899-7100

徳島キャンパス 〒770-8514 徳島市山城町西浜傍示180  
tel.088-602-8000

小豆島  
石の物語



小瀬原石丁場跡から瀬戸内海を望む

平成31年(2019)

2.10(日) ▶ 3.12(火)

開館時間 / 9:00 ~ 17:00 ※2月10日(日)は10時開館(開会式)  
会期中無休

関連行事

1 講演会 ①  
「大坂城の石垣をささえた島の石」  
日 時：2月10日(日) 13時30分~15時

講演会 ②  
「上方・江戸へと渡った島の石」  
日 時：2月24日(日) 13時30分~15時  
講 師：橋詰 茂 (徳島文理大学文学部教授)

2 展示解説会  
— 徳島文理大学文学部文化財学科の学生による展示資料の解説 —  
期 日：2月10日(日)、2月17日(日)、2月24日(日)、3月3日(日)、3月10日(日)  
※開館時間中随時

主 催 / 徳島文理大学  
共 催 / 土庄町 土庄町教育委員会  
後 援 / 小豆島町・小豆島町教育委員会  
大学コンソーシアム香川  
会 場 / 土庄町立中央公民館  
(香川県小豆郡土庄町甲620)  
入 場 料 / 無 料

# ごあいさつ

小豆島産出の花崗岩といえば、大坂城築城（1620～1629）の際に石垣として使われたことがよく知られています。その後も島の石は切り続けられ、日本各地で使われました。現在、小豆島には当時の石丁場があり、切り出された石が使われないまま残っている所もあります。

徳島文理大学文学部文化財学科では、平成25年（2013）度より小豆島内に伝存する石の歴史と文化に関わる古文書を中心とした史料の調査・研究を進めています。

本展は、「残された石の声—石がつなぐ小豆島と大坂城—」展〔平成27年（2015）度〕と「石の旅路—小豆島から上方へ江戸へ—」展〔平成29年（2017）度〕をもとに、新たな調査成果も踏まえて写真パネルや拓本などにより展示構成しました。島に残された歴史と文化に触れ、歴史的文化財の保全について関心を持っていただく機会となればと思います。

なお、本学文学部の学生による展覧会は平成17年（2005）度に第1回目を開催し、この度で第9回目の展覧会となります。学生達はこの取り組みを通して、自らの“主体性”、ともに進めていく“協調性”、実社会と接する中での“責任感”などを培うことができ、本学の建学精神「自立協同」を体現したと言えます。

平成31（2019）年2月

徳島文理大学



調査(天狗岩磯石丁場)



拓本採取(小瀬原石丁場)



調査(小瀬原石丁場)



大天狗岩前にて(天狗岩石丁場)

# 展示資料一覧

資料名	所蔵者
<b>第1章 小豆島の石丁場</b>	
● 小豆島石丁場分布図	徳島文理大学
● 石割の工程	徳島文理大学
■ 小瀬原石丁場矢穴石膏型・シリコン型と拓本	徳島文理大学
■ 天狗岩石丁場矢穴石膏型・シリコン型	徳島文理大学
■ 八人石石丁場矢穴拓本	徳島文理大学
● 石丁場で使われた道具	原資料:個人など
● 小豆島に置く道具具(笠井家文書) ★	原資料:個人
● 慶長小豆島絵図(複製品) ◆	原資料:個人
<b>第2章 小豆島と大坂城</b>	
● 小堀政一書状(笠井家文書) ★	原資料:個人
● 大坂城・刻印が見られる石垣	徳島文理大学
■ 諸大名の刻印の拓本 加藤家・黒田家・藤堂家・細川家・中川家・田中家など	徳島文理大学
<b>第3章 各地に渡った小豆島の石</b>	
● 小豆島石之目録控(笠井家文書) ★	原資料:個人
● 小豆島小海村石数之覚(三宅家文書) ★	原資料:個人
● 土庄村石場改帳写(笠井家文書) ★	原資料:個人
● 住吉大社(大阪市)	徳島文理大学
● 加座祭権兵衛・市川甚兵衛・ 栃尾八郎兵衛連署状(笠井家文書) ★	原資料:個人

資料名	所蔵者
● 五条大橋(京都市)	徳島文理大学
■ 五条大橋親柱銘文拓本	徳島文理大学
● 小堀政一書状(笠井家文書) ★	原資料:個人
● 日枝神社(東京都)	徳島文理大学
● 山王鳥居石取扱之覚(笠井家文書) ★	原資料:個人
● 江戸城天守台(東京都)	徳島文理大学
● 曾我古祐書状(笠井家文書) ★	原資料:個人
● 大阪湾に残る砲台	原図:神戸市立博物館
● 和田岬砲台(神戸市)	徳島文理大学
● 御用石員数寸尺改帳(石本家文書)	原資料:個人
● 日本水準原点標庫及び日本水準原点(東京都)	徳島文理大学
● 京都市電(京の記憶アーカイブ)	京都府立京都学・歴史館
● 京都市電三大事業誌 道路拡築編 図譜	京都府立京都学・歴史館
● 栗林公園で見られる小豆島産花崗岩(刻印入)	徳島文理大学
<b>第4章 今も島に残る石たち</b>	
● 小海村庄屋口上書案(三宅家文書) ★	原資料:個人
■ 小豆島で見られる残石と拓本 旧土庄警察署石碑・弥助店頭石碑 海蔵玄関前モニュメント・大部公民館前残石 八人石石丁場海岸・とちめんじ石丁場など	徳島文理大学
● 千振石丁場ナカノソワイ	徳島文理大学
● 小瀬石鎚神社奥巨石	徳島文理大学
● 未来へ—。	徳島文理大学

★ 土庄町指定文化財      ● 写真パネル等  
◆ 香川県指定文化財      ■ 拓本等



展示見学(大坂城残石記念公園内資料館)



調査(千軒石丁場)



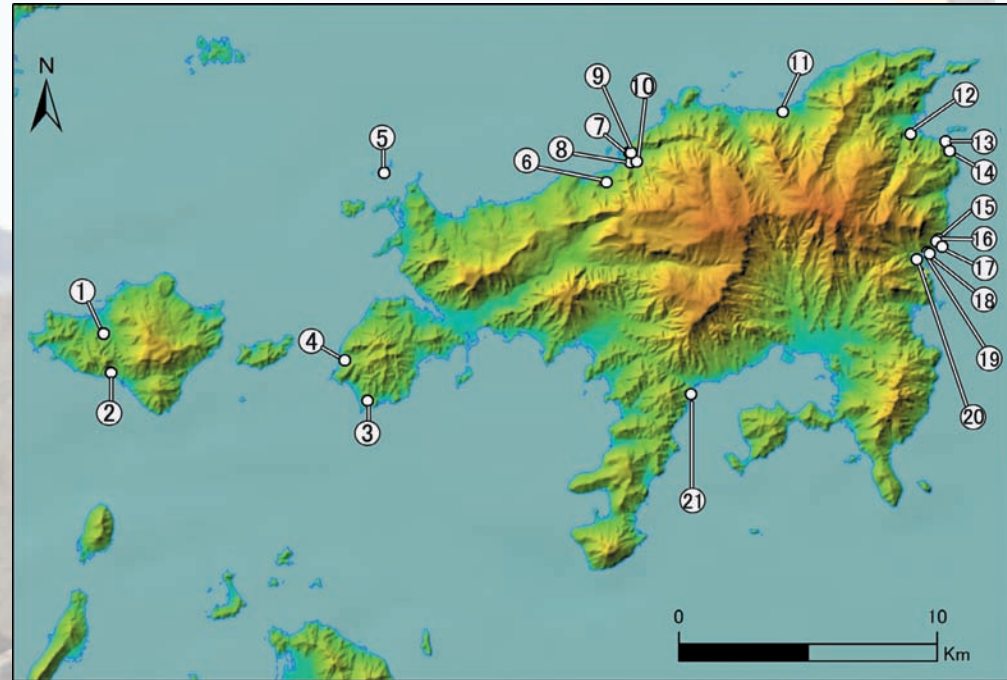
古文書調査



大学での学習会

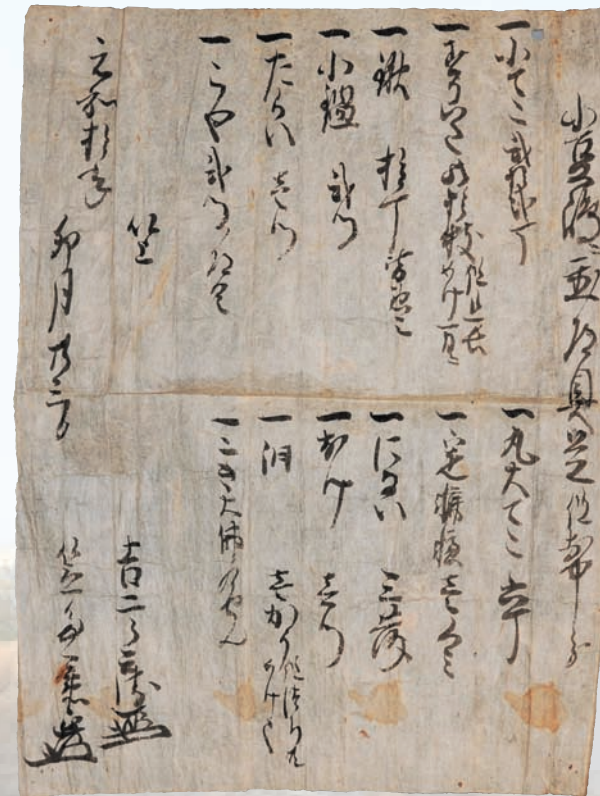
# 第1章 小豆島の石丁場 島の石丁場の歴史的意義や石割の工程について紹介します。

元和6年(1620)からの大坂城築城に際し、小豆島各地に石丁場(石材を切り出す作業場)が拓かれました。島に残る石丁場は大坂城築城時期のものとそれ以後のものがあります。下の地図と表は、現在分かっている石丁場を示したものです。



国土地理院地図に加筆

番号	石丁場名	藩名	文化財指定区分
1	豊島家浦石丁場	肥前佐賀藩(鍋島家)・安芸広島藩(浅野家)	
2	豊島甲生浦石丁場		
3	千軒石丁場	肥後熊本藩(加藤家)	香川県指定史跡
4	小瀬原石丁場		
5	千振石丁場	筑前福岡藩(黒田家)	
6	女風呂石丁場	豊後竹田藩(中川家)	
7	とび越石丁場		香川県指定史跡
8	宮ノ上石丁場	豊前小倉藩(細川家)	土庄町指定史跡
9	北山石丁場		
10	とびがらす石丁場		
11	大部石丁場	出雲松江藩(堀尾家)・出雲松江藩(松平家)・豊後竹田藩(中川家)	ろくろ場跡が土庄町指定史跡
12	福田石丁場		小豆島町指定史跡
13	とちめんじ石丁場	伊勢津藩(藤堂家)	
14	鯛網代石丁場		
15	八人石石丁場		
16	豆腐石石丁場		
17	亀崎石丁場	筑前福岡藩(黒田家)	国指定史跡
18	天狗岩磯石丁場		
19	天狗岩石丁場		
20	南谷石丁場		
21	石場石丁場	筑後柳川藩(田中家)	小豆島町指定史跡

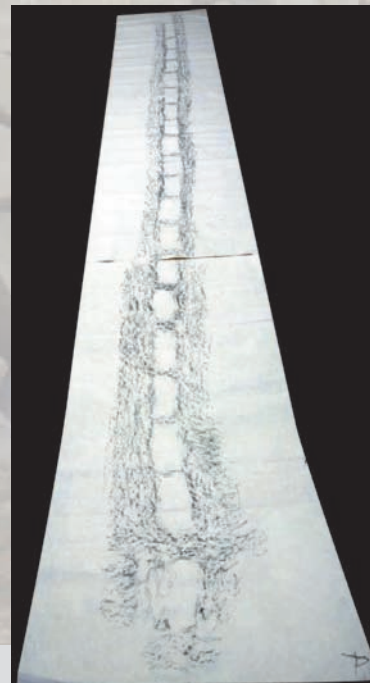


いろいろな種類の道具を使って石を切り出していたことが分かります。

熊本藩加藤家が石を切り出すために使用した道具の種類や数が記されています。ここに書かれている道具は個人で使うものではなく、全員が共通で使うものです。中には、鍬・梃子・桶など現在でも使われている道具もあります。

土庄町指定文化財  
◆小豆島に置く道具覚  
元和10年(1624)  
〈笠井家文書 個人蔵〉

矢穴の大きさや深さは石丁場ごとに異なります。



◆小瀬原石丁場の矢穴拓本  
〔全長4.1m〕



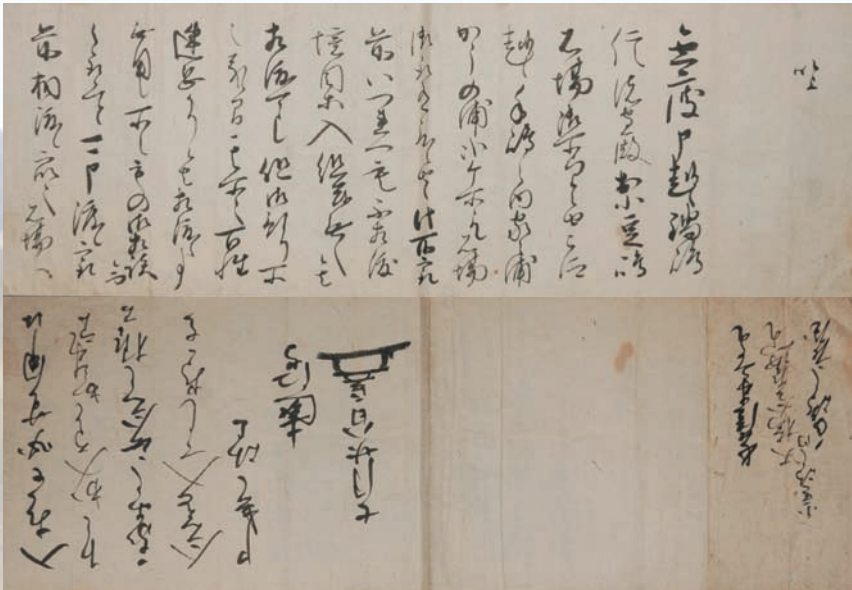
◆小瀬原石丁場の矢穴石膏型・シリコン型

小瀬原石丁場は土庄町にあります。石を割るときに用いる矢を入れる穴のことを矢穴といいます。その大きさと形を知るために残石からシリコン型や拓本を採取しました。この拓本は表紙の巨石のものです。

## 第2章 小豆島と大坂城

大坂城築城時の石丁場に残る石に見られる大名の刻印について紹介します。

佐賀藩主鍋島勝茂は小豆島に石丁場を求めました。そこで小堀政一（遠州）は、豊島の家浦と甲生浦の石丁場を渡すよう家臣の長屋木工・大橋金左衛門と豊島の庄屋へ指示を出しました。小堀は大坂城作事奉行として、石丁場に関わる強い権限を持っていました。



二つに折り、文字が向かい合う形(折紙)の文書です。

土庄町指定文化財  
◆小堀政一書状  
元和7年(1621)  
〈笠井家文書・個人蔵〉



### ◆大坂城 一北西内堀から一

大坂城は慶長20年(1615)大坂夏の陣で焼失しました。徳川秀忠の命により元和6年(1620)から築城を開始し、寛永6年(1629)に完成しました。その当時の石垣が現在も残っています。



### ◆刻印が見られる石垣

大坂城の石垣には、小豆島から切り出された石が使われており、そこには諸大名の刻印が見られます。

## さまざまな刻印

切り出した石が誰のものか分かるように刻んだ印です。大名独自の刻印として「田」のような形、蛇の目(◎)、渦巻きのような形などさまざまな種類があります。大坂城の石垣に見られる刻印と同じものが、島の残石にも見られることから、小豆島の石が運ばれたことがわかります。

同じ大名でも石工によって刻印の形が異なります。



加藤家(小瀬原石丁場)

中川家(女風呂石丁場)

藤堂家(鯛網代石丁場)



細川家(大坂城残石記念公園)

細川家(とびがらす石丁場)

田中家(石場石丁場)



黒田家(八人石石丁場)

黒田家(豆腐石石丁場)

黒田家(天狗岩石石丁場)

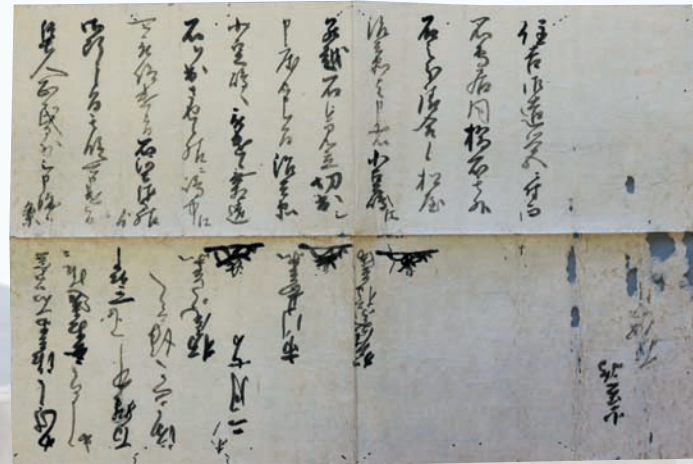
### 第3章 各地に渡った小豆島の石

島の石が日本各地でどのように使われていたのかを古文書などをもとに紹介します。

住吉大社は各地の海辺に建てられています。

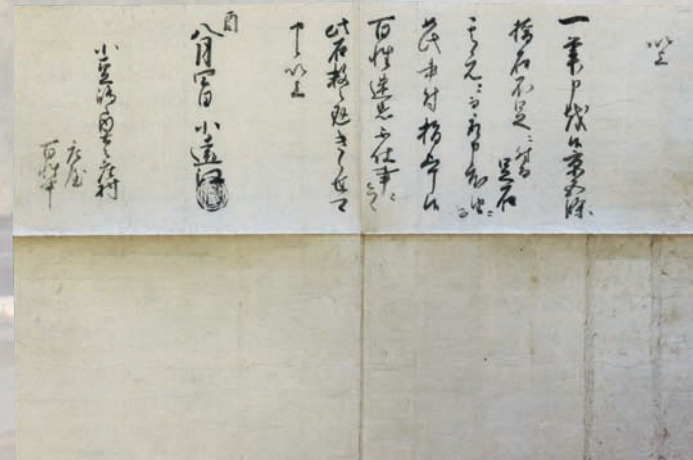
大坂の住吉大社の石鳥居と石橋の造営を請負う商人の松屋治兵衛が小豆島の石の視察に赴くため、大坂町奉行らが島の庄屋へ石を切り出すように指示したものです。

土庄町指定文化財  
◆加座祭権兵衛・市川甚兵衛・  
栃尾八郎兵衛連署状  
承応4年(1655)〈笠井家文書 個人蔵〉



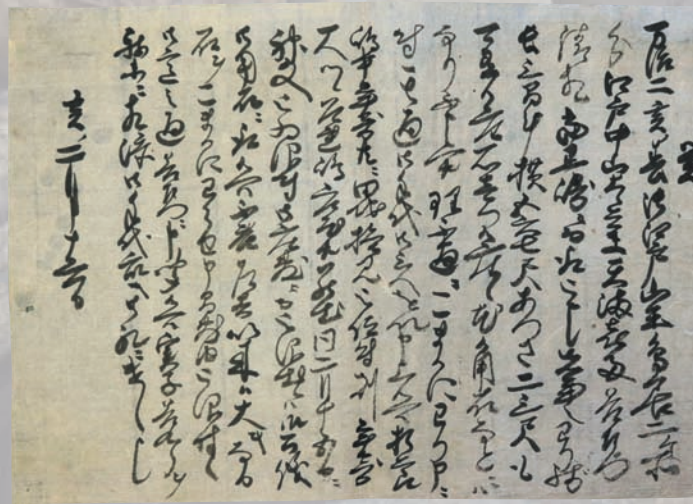
京の五条大橋をかけるのに石が不足しているため、小豆島を管理している小堀政一が、石を切り出すように土庄村の庄屋と百姓達に指示した書状です。

土庄町指定文化財  
◆小堀政一書状  
正保2年(1645)〈笠井家文書 個人蔵〉



明暦の大火(1657)後、江戸の山王社の鳥居石を請け負った中山太郎兵衛と天満喜多善左衛門が黒崎にある残石を公儀御用として加工し、用いるよう島の人々に依頼しています。

土庄町指定文化財  
◆山王鳥居石取扱之覚  
万治2年(1659)〈笠井家文書 個人蔵〉



小豆島の岩谷村で砲台に使用できる石がどれくらいあるのか調べて書き留めた台帳です。

◆御用石員数寸尺改帳  
文久3年(1863)  
〈石本家文書 個人蔵〉

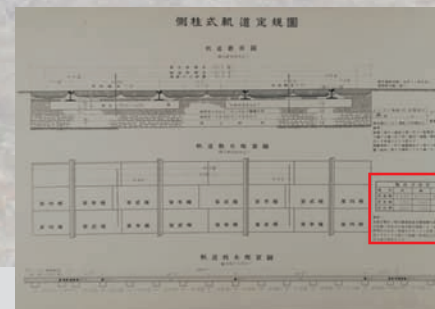


敷石は哲学の道や産寧坂・二年坂の石畳などで再利用されているようです。

◆京都市電(大正時代)  
烏丸七条/東本願寺御影堂門前  
〈京の記憶アーカイブ 京都府立京都学・歴史館蔵〉

市電は明治28年(1895)から昭和53年(1978)まで京都市内を走っていました。路面に使用する敷石の一部は、小豆島から切り出した石を使用しました。

京都市電の路面の敷石に使用されている石の産地として小豆島の見目・小海・大部・小部が記載されています。



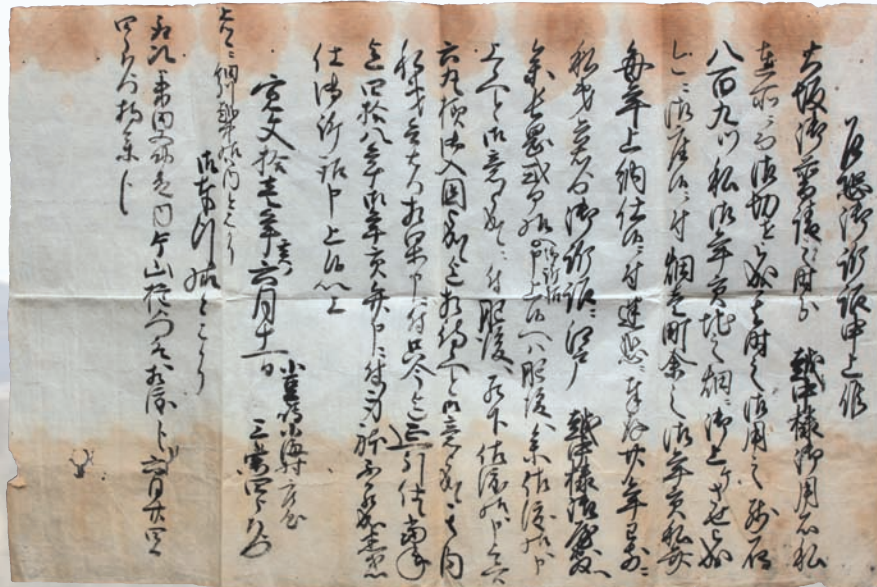
敷石寸法表			
種別	長	幅	厚
第貳種	尺 2.57	尺 1.30	尺 0.32
第參種	1.82	1.30	0.32
第四種	2.00	1.30	0.32

摘要：  
花崗石敷石ハ岡山縣連島嶺生愛媛縣大島香川縣小豆島ノ内見目小海大部小部産ノモノ及ビ之ト同等以上本市ノ兼認セルモノトシ白色ニシテ歎点ナキモノトス而シテ表面ハ中切仕上合端二寸以上重上切仕上トス

◆京都三大事業誌 道路擴築編 図譜 大正3年(1914)5月10日発行(京都府立京都学・歴史館蔵)

## 第4章 今も島に残る石たち

現在、石丁場から切り出されて小豆島に残っている石について紹介します。



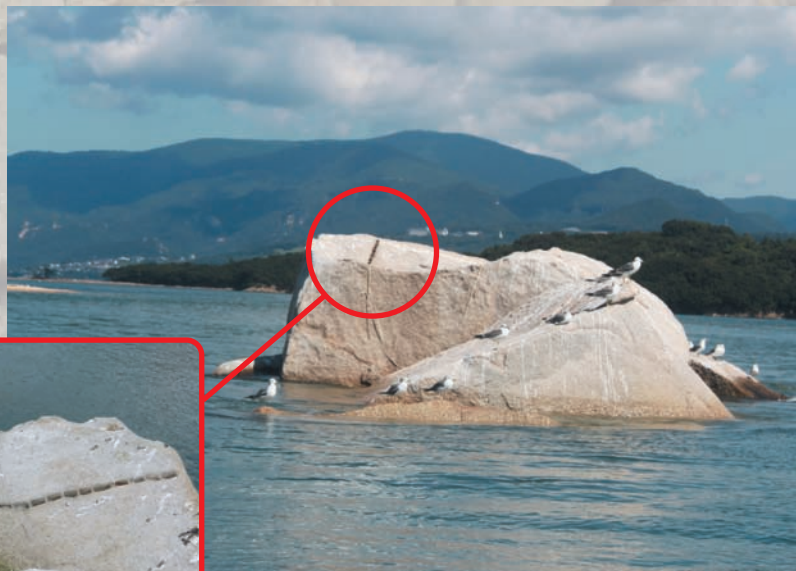
残石の部分の年貢が農民の負担になっています。

土庄町指定文化財  
◆小海村庄屋口上書案  
寛文11年(1671)  
〈三宅家文書 個人蔵〉

「畑に放置された残石のせいで非常に困っている」と、小海村の人々から細川氏へ訴えた二回目の書状です。しかしこの訴えも叶わず、石は幕末まで撤去されることはありませんでした。

この石丁場、船でしか行けません。

千振島の沖合にある岩礁です。巨石の上部には22個の矢穴が一行に並んでいます。



千振石丁場・ナカノソワイ



旧土庄警察署石碑



寿司割烹「弥助」店頭石碑



天空ホテル「海廬」玄関前モニュメント



大部公民館前残石

## 未来へ――。

小豆島にはまだ、私たちの知らない残石や石丁場があります。それらは、小豆島の自然の中で先人たちが刻んだ歴史を背負い、ただひっそりと長い時を静かに過ごしてきました。

今回、私たちは調査の中で、さまざまな石と出会いました。風化して、矢穴跡や刻印が消えかかっているものもありました。船に積み残され、海中に沈んだ石もありました。また、消波ブロックの下に埋もれ、人目につかない石もありました。そのような石は、私たちに何を語っているのでしょうか。

私たちは、少しでも語る力を残しているうちに、石の声に耳を傾けなければなりません。そして、小豆島の貴重な歴史遺産を後世に伝えていく必要があります。



小瀬石鎚神社奥巨石



テトラポットの下に見られる残石

江戸から平成へ、そして次の時代へ。石に刻み残した歴史を今度は私たちが未来へつないでいかなければなりません。それが私たちの使命です。みんなで石たちの思いに寄り添いませんか。

新たな「石の物語」を紡いでいくために……。